

茶花を献じる儀式

一般社団法人豊前國小笠原協会理事 光畑浩治

ふと、神の花ってあるのだろうか、と思つた。

それは令和六年（二〇二四）、徳力神宮・神理教（福岡県北九州市小倉南区）の「春大祭」で、煎茶道せんちやどうの関係者が、神前に茶花ちやばな献上の儀式を執り行う話を聞いた後だった。

これまで献花、献茶それぞれ神に捧げられていたようだが、茶花ともに献じる儀式は稀まれであらう。

茶には抹茶道まっちやどうと煎茶道があるようだが、暮らしの「茶」は煎茶が親しいようだ。

煎茶道は「文人華ぶんしんか」を愛でながら茶を味わう風流味溢れる姿であり、まさに茶と花と人とが好対峙する厳肅な空間になっているようだ。

そこで神殿での茶花献上は、暮らしのそばの煎茶道の儀式がふさわしいのではなからうか。ところで、仏壇やお墓に供える仏花は数多くあるようだが、神花いわゆる神の花はどれだけだろうと調べると、百年に一度、花を咲かす奇跡の「アガベの花」が「神の花」とよばれているようだ。

そして花を咲かせた後、子孫を残して枯れてしまう貴重な緑花木のようだ。アガベはメキシコ原産で暑さ寒さに強い多肉植物。

初心者でも育てやすい観葉植物として親しまれている。

和名は竜舌蘭（リュウゼツラン＝万年蘭）とされる。

花言葉は「繊細」と「気高い貴婦人」。

神の花は、意外と生活の身近なところに存在する緑花だった。

そこで煎茶道関係者に献上儀式を尋ねると、普通、神域のお供えには、茶は玉露ぎよくろほかで華は松、竹、梅などを中心に飾るようになっていた。

今回の神理教への献上茶花は、神の花アガベを加え、めでたい儀式である為、松、竹、梅、万年青、万年蘭（アガベ）五点を基にした「文人花ぶんじんはな」スタイルで献じられればと願う。
詠よまれた「神の花」を掬すくう。

筆とるや見ぬ神花の夕けしき

加賀千代女

祭壇かいたんに咲けば海芋かいらぎも神の花

下村ひろし

竜舌蘭りゅうぜつらん朝焼雲は洋に立つ

中村草田男

めでたしとひとのたふふるにまかせつゝ高々と咲けり竜舌蘭の花は

米山梅吉

この茶花献上の無事終了後、徳力神宮・神理教と一般社団法人豊前国小笠原協会（福岡県みやこ町）などで茶と花の融合「茶花流」を立ち上げ「茶花士ちやばなし」育成をすすめていければと願っている。

とにかく、いにしえの事績を探り、今の時代にふさわしい文化のカタチが生まれればこの上ない喜びである。神を尊ぶのは全ての魂を受け入れ許してくれるからだろう。

